

「ファイアーのつどい研修」プログラム

国立江田島青少年交流の家

1 活動内容

燃える炎を見つめながらしみじみと語り合い、歌い、踊り、ゲームを楽しみながら、華やかで感動に満ちたときを過ごす。

2 活動のねらい

皆で炎を囲み、楽しみ、親睦を深める。
協調性を高める。
今日を反省し、明日への活力をつくる。

3 対象者

小学校5年生以上

ただし、保護者又は責任の持てる引率者と組んで活動する場合は4年生以下でも可能。



4 研修人数及び研修場所

- (1) 営火場：最大60人
- (2) 野球場：最大200人
- (3) グラウンド（芝生等に影響のない場所）：最大100人×2ヶ所（ファイアー場所A・B）
※4ページ参照

5 実施時期、研修時間

- (1) 実施時期 通年
- (2) 研修時間 19時00分～21時00分
※8-(3)の作業を19時00分までにしておく。
※後片付けは21時00分以降にしてもよい。



6 準備物

- (1) 個人：運動に適した服装、運動靴、飲み物（必要な場合）、スタンプに使用するもの
- (2) 引率者：携帯電話
- (3) 団体：薪10束程度（ボランティア棟1F売店 イシダスポーツでも販売1束600円
要事前予約）
※持参の場合、未使用の薪、燃え残りも「持ち帰り」が原則。
トーチ（ボランティア棟1F売店 イシダスポーツでもレンタル1本200円：要事前予約）
※レンタルした場合は、薪に点火後、水を入れたバケツの中で消す。（リユースするため）
マッチ（チャッカマンなど）、灯油、懐中電灯、新聞紙、軍手、虫除け（必要に応じて）
- (4) 交流の家：事務室…コードリール、アンプ、ワイヤレスマイク、火の神衣装、バケツ、火バサミ
講堂・食堂棟北側…一輪車
講堂・食堂棟西側…リヤカー
第1・2野外炊事場…ほうき、スコップ
※4ページ参照

7 指導・安全管理

(1) 指導者の配置・人数・役割分担

研修は、「ファイアーのつどい研修」プログラムをもとに、団体がファイアーのつどいの指導・安全管理等を行う。

- (2) 引率者の配置・人数・役割分担
活動団体で次の役割を持たせる。(小規模の団体は担当を兼ねられる)
- ① 総括責任者 (全体の総括, 緊急時の連絡担当)・・・1名
 - ② 指導担当者 (指導, 用具の準備, 安全管理)・・・1名以上
 - ③ 監視担当者 (火の管理, 安全管理)・・・1名以上
 - ④ 救護担当者 (健康観察・応急処置)・・・1名以上
- (3) 事故発生時の措置
緊急の場合は, 総括責任者は携帯電話で交流の家に連絡を行う。

8 展 開

- (1) 「物品利用希望書」の提出
必要事項を記入し, 総括責任者が入所時に交流の家へ提出をする。
- (2) 借用物品受け渡し
実施前
- ① 指導担当者は, 事務室から必要に応じてコードリール, アンプ, ワイヤレスマイク, 火の神衣装, バケツ, 火バサミを受け取る。
 - ② 実施場所のコンセント等の確認をする。(4ページ参照)
 - ③ 実施場所で薪を組む。(組み方(例)は5ページ参照)
 - ④ 火の神(点火係)のトーチに灯油をしみこませておく。
- (4) 事前指導
集合場所…つどいの広場
集合時刻…19:00
(指導担当者)
- ① グループ毎に整列させる。
 - ② 救護担当者に健康観察をさせる。
- (5) 指導担当者は目的, 注意事項を説明する。
(注意事項)
- ① 暗いので足元に注意して歩く。
 - ② くさむらやしげみには入らない。
※マムシ等の危険がある。
 - ③ けが, 体調が悪くなったら, 引率者に連絡する。
- (6) ファイアーのつどい
(例)
- 第1部
- ① 入場
 - ② 歌「遠き山に日は落ちて」
 - ③ 火の神入場→火の神の言葉→点火
 - ④ 歌「燃えろよ燃えろ」
 - ⑤ 営火長のことば(火にまつわる話)
- 第2部
歌, スタンツ, ゲームなどで盛り上がる
- 第3部
- ① 歌「一日の終わり」
 - ② 沈黙(黙って火を見つめる)
 - ③ 誓いの言葉(各班代表, 各クラス代表など)
 - ④ 営火長終わりの言葉
 - ⑤ 歌「今日の日はさようなら」
 - ⑥ 退場
- ※監視担当者は火の調節を行う。



(7) 事後指導

(指導担当者)

- ① 救護担当者に健康観察をさせる。
- ② まとめをし、解散する。
- ③ ファイアーのつどいの研修終了を交流の家へ報告するとともに、借用物品の返却をする。

(8) 片付け

監視担当者は次の方法で片づけを行う。

- ① ファイアーの火は水をかけて消さない。
※営火場は耐火レンガが割れてしまうため、特に注意する。
- ② 営火場・・・残り火は火床中央に集め、おき火の状態になってから、営火場に置いてある蓋をかぶせる。
野球場・グラウンド・・・火バサミで残り火をバケツに入れながら消火する。水につけた後は並べておいて置く。あまりくっつけて置くと再発火の可能性があるので注意する。
- ③ 翌朝の清掃時間等に、灰は灰捨て場（営火場、野球場で実施の場合は第1 野外炊事場、グラウンドの場合は第2 野外炊事場）に持っていく。（それぞれの場所については4 ページ参照）
※営火場の灰捨て場は使用しない。
※念のため、水をかけて消火確認をする。
- ④ トーチをレンタルした場合は、トーチをボランティア棟1 F 売店 イシダスポーツに返却する。

(9) 連絡先

一般電話番号

国立江田島青少年交流の家 TEL 0823-42-0660

TEL 0823-42-0661

TEL 0823-42-0663

ファイアーのつどい 薪の組み方（例）



1. 火持ちをよくするために1束縦に置く



2. 周りに8角形に薪を組んでいく（太いものから）



3. 束と同じくらいの高さまで組んだら束の周りに新聞紙をねじって入れる。



4. 細い薪を束の周りに入れていく



5. 8角形に組んだものの上に正方形に薪を組んでいく。



6. 残った薪は周りに放射状に並べる。

7. 灯油を薪にかけると（300ml程度）点火と同時に勢いよく燃えます。